

平成27年度事業報告書 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

平成27年度において実施した本財団事業の概要は次のとおりである。

I. 環境教育事業 (継続事業)

1) 「みどりの小道」環境日記

本年度で17回目を迎える「みどりの小道」環境日記事業は、環境省、文部科学省、外務省、東京都の後援のもと10万部を印刷し、約98,740人の児童に無償で配布しました。コンテストには5,604名の応募があり、審査の結果、個人の部・団体の部の各賞が選ばれました。表彰式には児童や保護者が約500名参加して大臣賞はじめ各賞が授与された。

① 「みどりの小道」環境日記2015年を制作し、無償配布

- ・冊子名称 : 「みどりの小道」環境日記2015年
- ・制作冊数 : 100,000冊
- ・配布対象 : 全国小学校、こどもエコクラブ等
- ・実施期間 : 平成27年4月1日～平成28年3月31日

② 17回「みどりの小道」環境日記コンテストを実施する。

- ・第1次～第3次審査を経て、金賞、銀賞等の各入賞者を決定
個人の部 金賞：7名 銀賞：20名 銅賞：50名 佳作：150名
審査員特別賞：12名
団体の部 金賞：9団体 優秀賞：4団体

③ 17回「みどりの小道」環境日記コンテストの表彰式開催

上記コンテストの審査の結果を受けて、表彰式を行った。

- ・日時 : 平成27年12月12日
- ・場所 : 東京ビッグサイト

2) こどもエコツアー「エコプロエコキッズ探検隊」の実施

一般の参加申し込みの子どもたちを対象として、「エコプロダクツ2015」開催中に出展している会社のブースを巡るこどもエコツアーを実施した。出展企業を、温暖化防止コース、3Rコース等、合計5コースの中から、興味あるコースを選んでもらい、ガイド役の案内で、会場内の各ブースを訪問し各社の環境への取り組みを学び、ツアー終了後にアンケート用紙に記入してもらい、子どもたちが感じた事を、出展企業に報告し、改善に役立ててもらった。

II. GCI組織との連絡協調

1) GCIの国際会議への参加と助成

GCI理事会の事前打ち合わせと、スイスでの理事会に岩崎理事長と川本部長が出席した。GCIには助成金を拠出した。

2) GCスイスとの協調

昨年に引き続きG Cスイスと共同での事業を行う。

① サマーキャンプの実施

昨年に続き、東日本大震災の原発事故の影響を受けた、福島県の子どもたちとその保護者を、夏休みの間に自然豊かな屋外でノビノビと活動してもらうためG C Jの計画のもと、G Cスイスと共催で新潟県十日町でサマーキャンプを実施した。

② スイスからの視察団のためのシンポジウム開催

G Cスイスが原発事故後の福島県の状況を視察することを目的で組織したスイスの国会議員はじめ各国のジャーナリストを含む視察団が来日した。9月28日に東京で、G Cスイスと、G Cジャパンの共催で「原子力エネルギーについて語る」と題したシンポジウムを開催した。

3) G Cスリランカの支援と「水プロジェクト」の完成

① G Cスリランカの支援

G Cスリランカの自立と、当地での「環境日記」などの事業を継続実施するため引き続き助成した。

③ 「水プロジェクト」の完成

G C JとG C Iが計画した、スリランカ中東部のプラウエリ村での、地下水利用の水道設備事業の工事が完了した

これにより、日量4万リットルの水道水の製造が可能となり、198世帯、1,028人の村人が清潔な飲料水を乾季においても十分に確保できるようになった。

Ⅲ. その他事業（その他会計事業）

1) 販売事業

回収した牛乳パックを100%使用したティシュペーパーや、古紙100%再生紙使用のトイレットペーパー等の家庭紙の販売をおこなう。

2) 受託事業

全国小中学校環境教育研究会の主催する「第19回全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」事業の業務を受託し、この事業の事務局として、G C Jの持っているノウハウを生かして協力した。

Ⅳ. その他

1) 緑のカーテンを寄贈

今年は福島県の震災被災地の山元町で、いまだに、校舎を間借りしている山元第二小学校数校、ほか中学校2校にゴーヤの苗など緑のカーテンセットを寄贈した。ジーンズ協議会の協力で実施した。